

# 平成21年7月中国・九州北部豪雨

## 那珂川町の氾濫被害の事例

8月上旬調査

調査者：磯 望(西南学院大学)、黒木貴一(福岡教育大学)、  
後藤健介(長崎大学)、黒田圭介(西南学院大学)、福岡教育  
大学学生(3年)

## 2009年中国・九州北部豪雨災害の福岡市周辺被害について

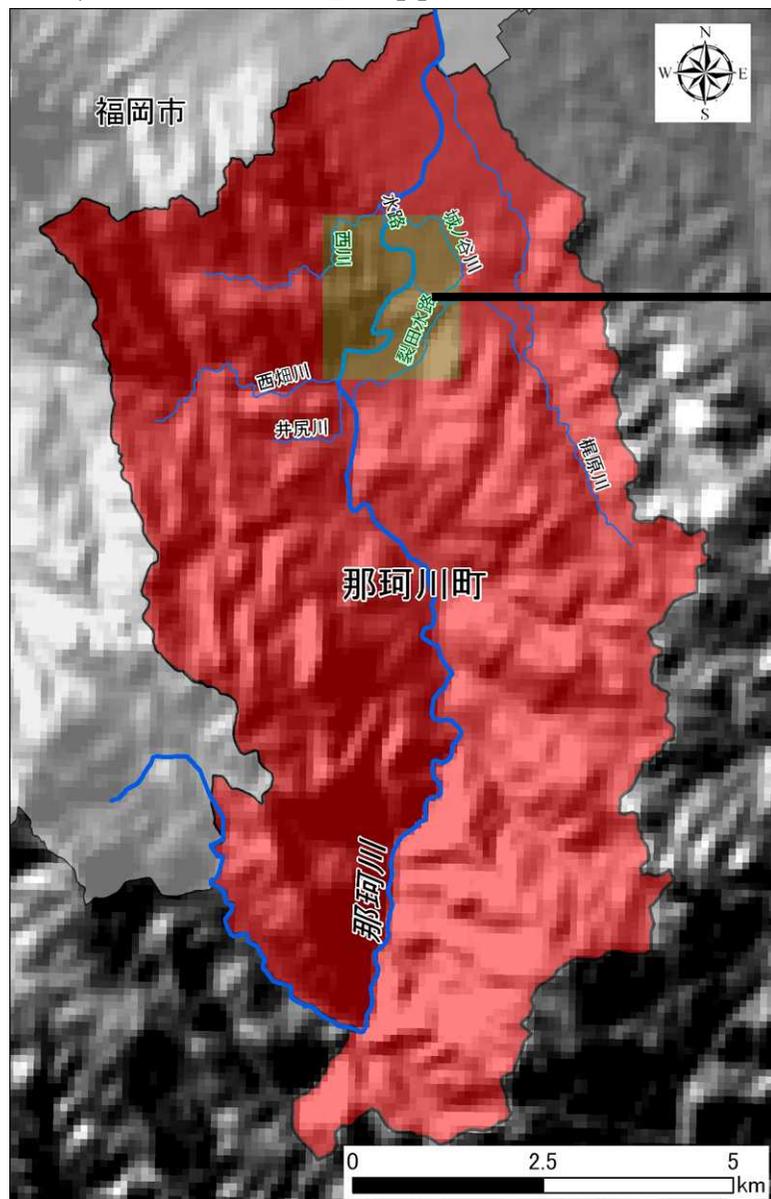
2009年7月26日未明から午前11時過ぎまで、福岡県中部を襲った豪雨は、降り始めてから3日間の連続雨量が太宰府市で609mm、那珂川町で556mmに達した。雨量強度も大きく、土砂災害も発生したが、土石流や規模の大きな崩壊は散発的であった。人工的な法面崩壊は太宰府市では随所に散見された。

河川の氾濫は福岡市中西部の樋井川沿岸や那珂川町から福岡市中心部に至る那珂川沿岸などで生じた。ここでは那珂川町での洪水氾濫(主として堤防からの溢流)の一部を報告する。

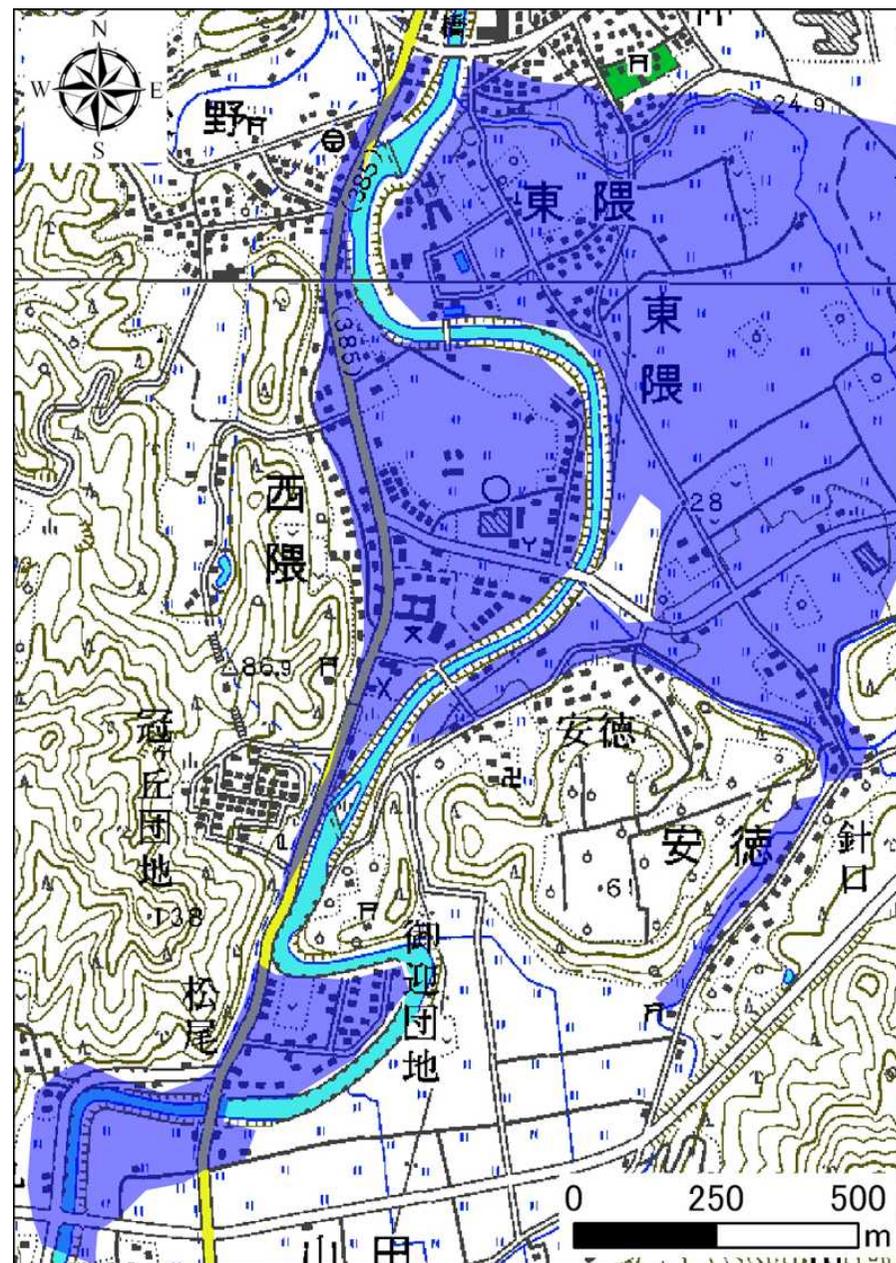
なお、この地域では2003年・1999年にも時間雨量100mmに達する集中豪雨があり、太宰府市や宇美町で土石流や洪水が発生した。今回の豪雨はこれによりはるかに多い連続雨量とこれに匹敵する時間雨量を記録したにもかかわらず、大規模な土砂災害の発生は限られていた点は注目される。また、2003・1999両年とも氾濫した博多駅前の御笠川は、河川改修や地下式貯水槽の建設などの効果があり、溢流を免れた。

# 氾濫の確認できた範囲

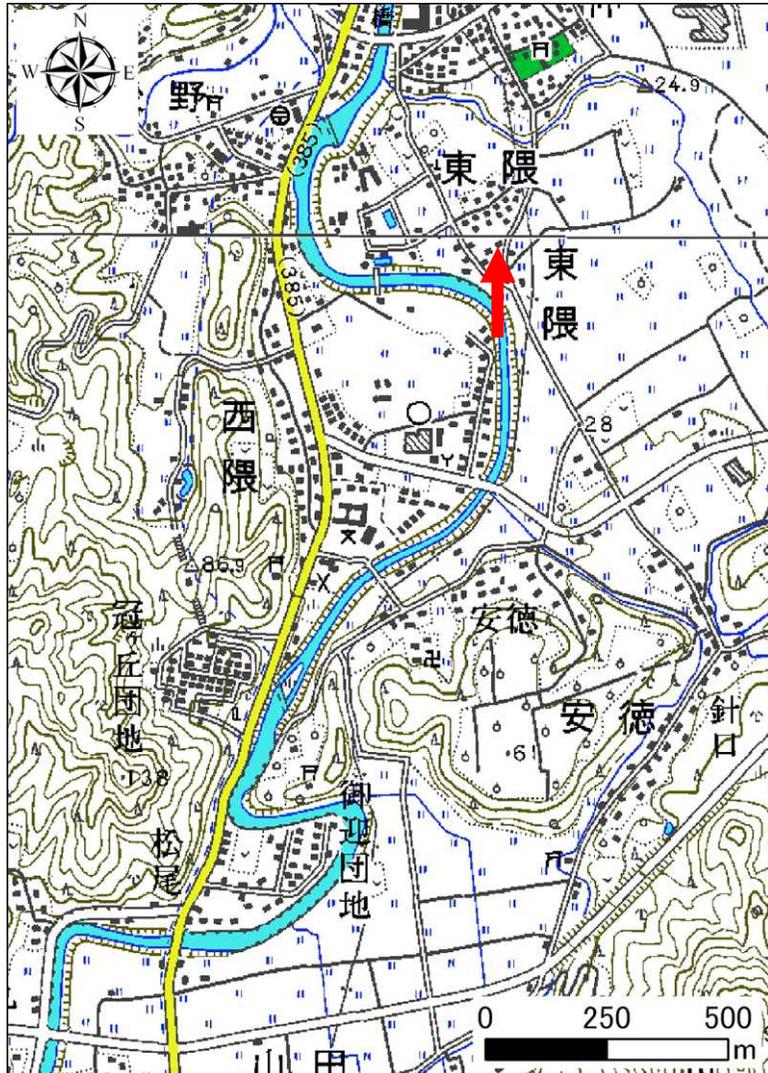
調査中



約10cm以上浸水した範囲

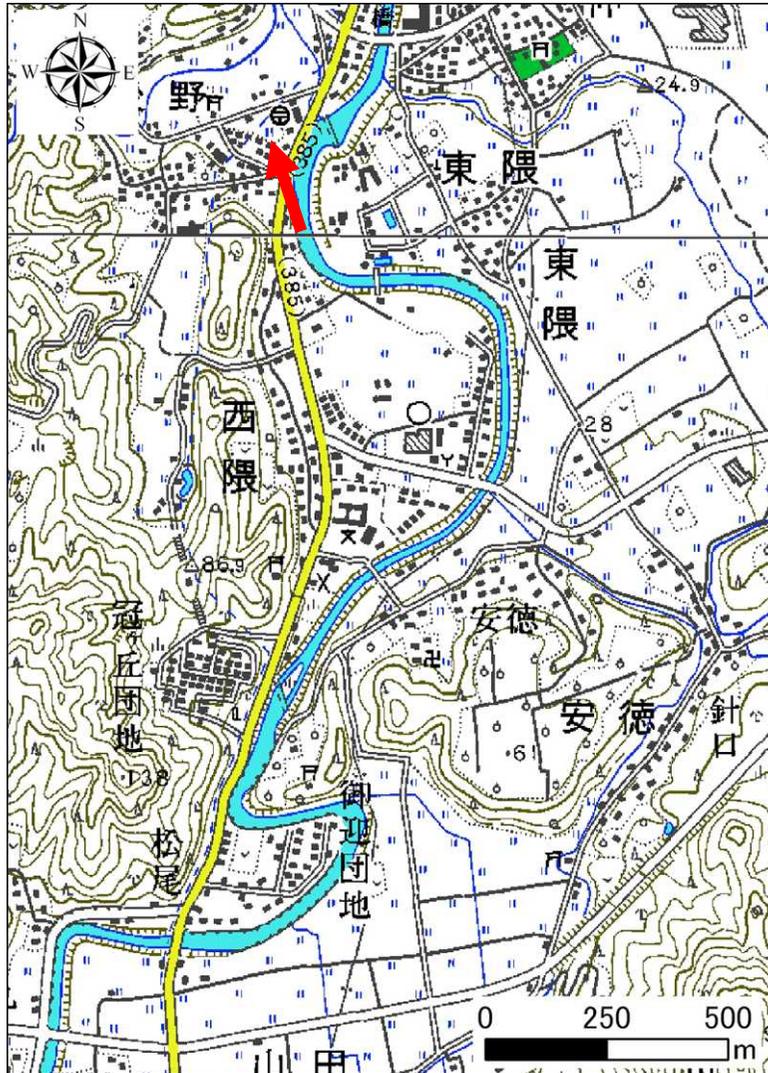


# 攻撃斜面での溢流 東隈



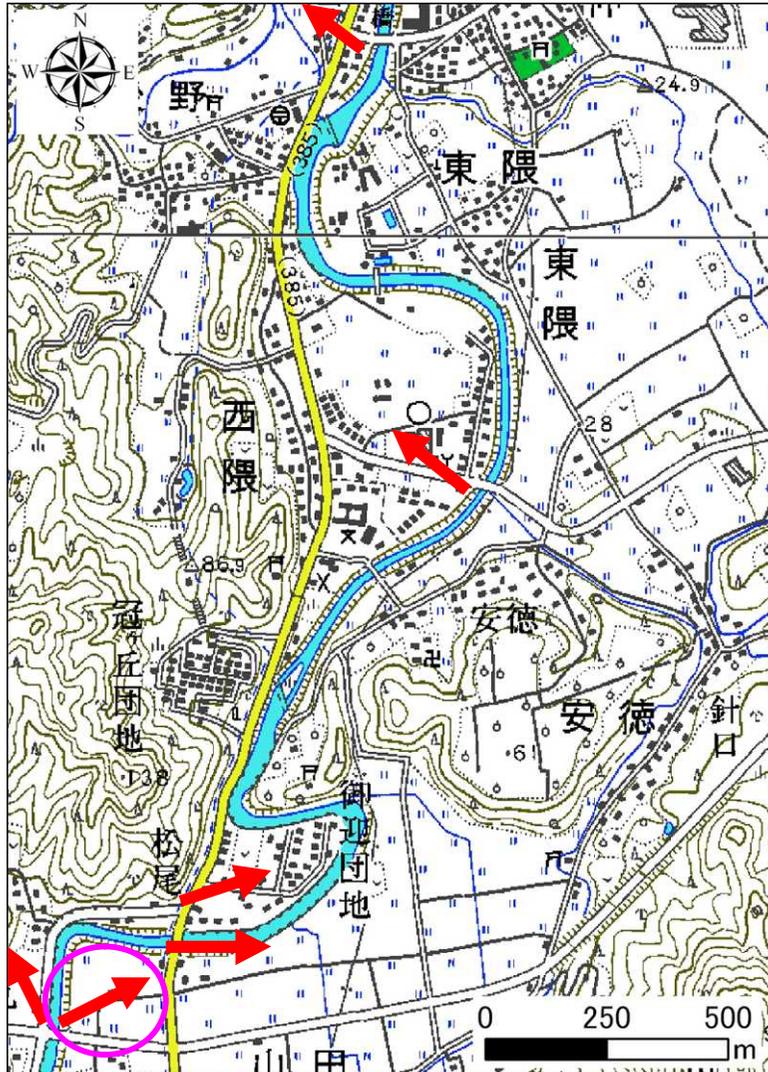
土嚢が積み上げられている。  
溢水は東隈地区に流入した。  
堤防から外側2m以内に土砂(最大  
20cmで平均5cm)が蓄積する。

# 堤防の未整備による溢流 後野



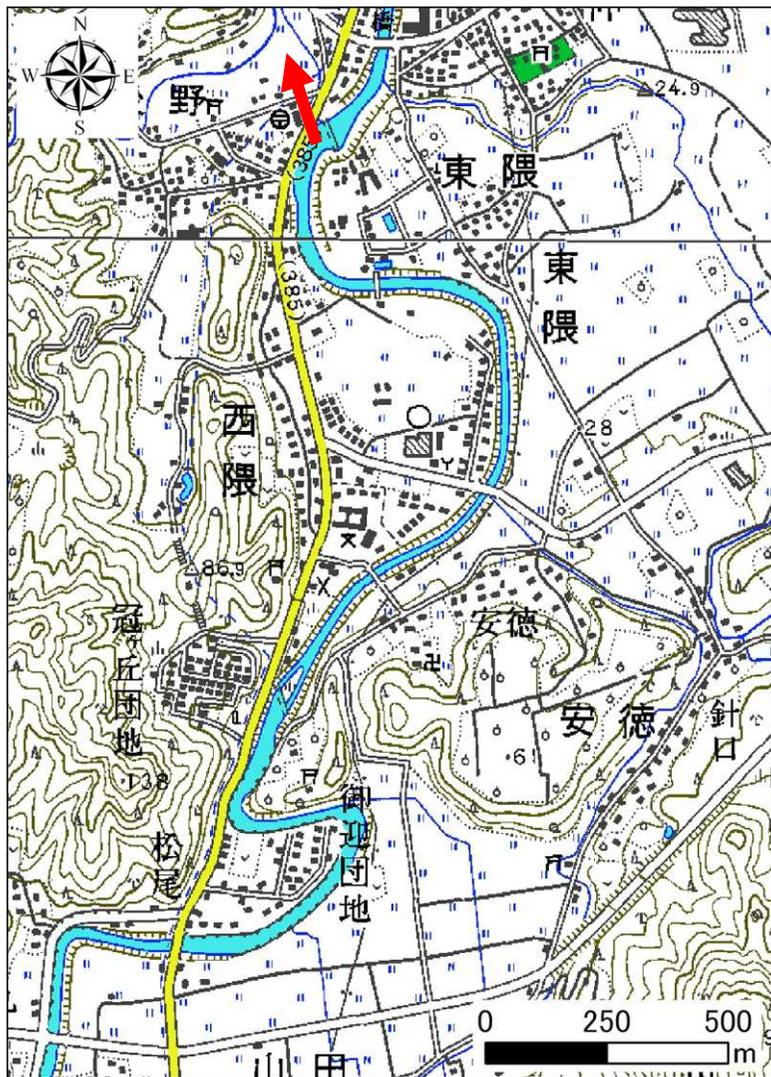
柿の井堰手前200m付近に堤防未整備区間が見られた。  
溢水は後野地区に流入した。  
土砂の痕跡は少ない(最大1mm)。

# 橋による水位上昇 おぎわら橋



現人橋、轟橋、松尾橋、おぎわら橋付近で溢流をし、堤内に侵入した。倒伏等で判断した侵入方向を矢印で示す。堤防直近以外、土砂は最大10mm程度。

# 堰による水位上昇 柿の井堰

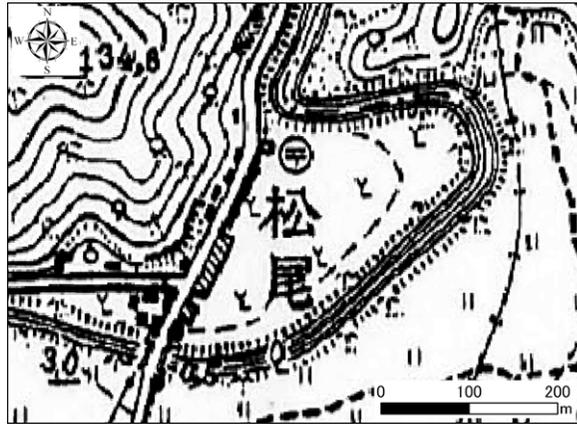


堰に流木やゴミが集積している。  
堰下流側に大量の土砂(厚さ1m)が蓄積している。

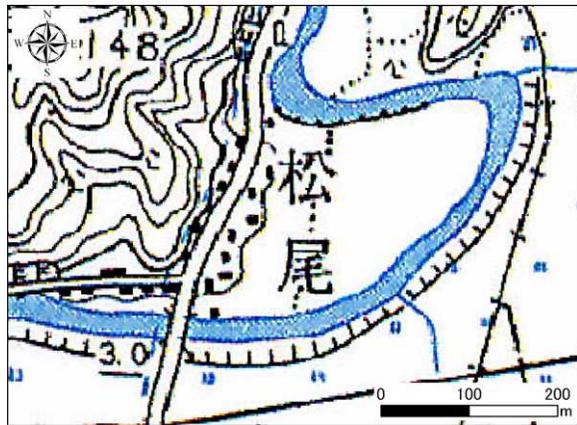
河畔林に多くのゴミが残されている。  
堰手前10m程から溢流痕跡がある。

# 堤防はあるのに、低い土地での宅地開発1 御迎団地

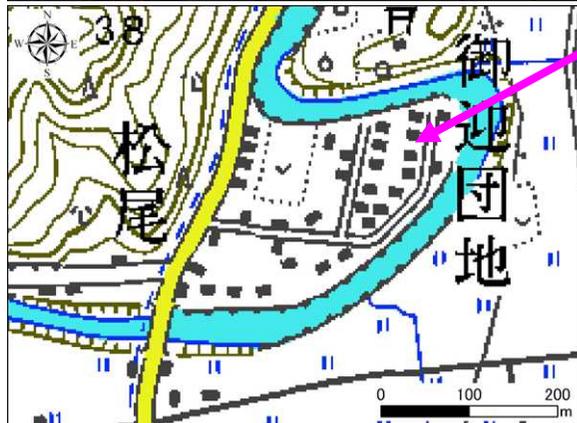
S13



S42



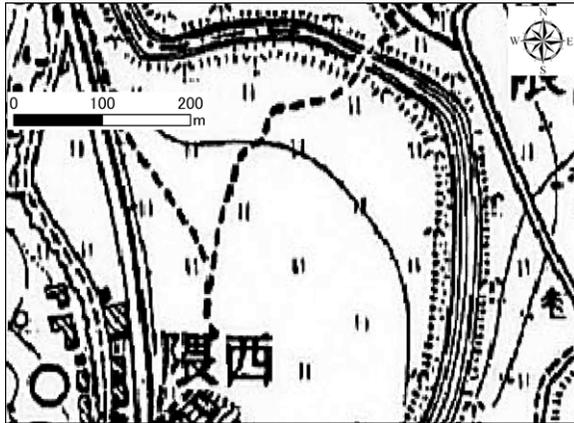
H12



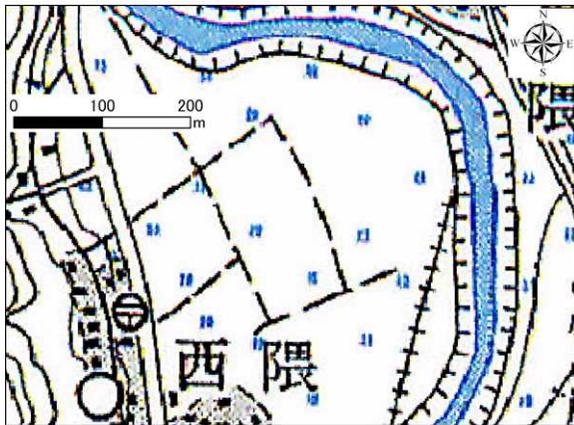
松尾橋からの溢流は、堤内の団地に侵入し、最大1.1mの浸水深があった。昭和初期は河畔竹林に囲まれた桑畑。昭和中期は空き地(開発中地か)。現在、河畔竹林は大半堤防に変化した。

# 低い土地での宅地開発1 役場周辺

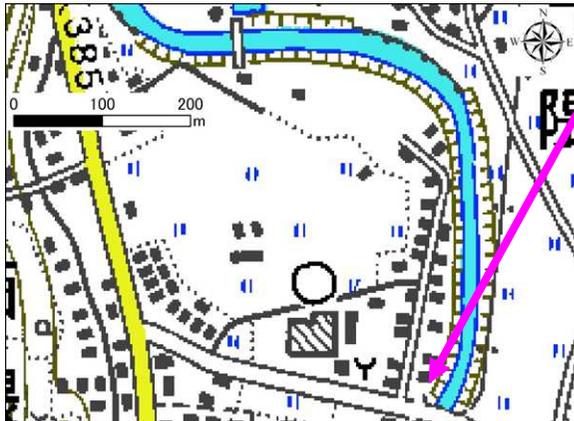
S13



S42



H12



轟橋からの溢流は、堤内の団地・役場に侵入し、最大1.1mの浸水深があった。昭和初期は河畔竹林に囲まれた水田。昭和中期は河畔竹林が堤防に変化。堤外の河畔林に土砂が大量蓄積。